

宇宙政策委員会宇宙産業・科学技術基盤部会 (2018年9月28日)

UAE 関連報告

専門委員 秋山演亮

全体方針	<ul style="list-style-type: none"> ● UAE は独自の火星探査 / 開発計画をもつ宇宙開発新興国であり、我が国とも経済的な結びつきも強い。また政治的にも友好関係にある。宇宙開発分野における日本のヘリテイジを活かした協力関係を結ぶ相手国として、UAE は有力な候補国である。UAE との協力関係を進める事で、他国との協力関係のモデルケースやきっかけとしていくべきである。 ● 我が国の産官学 (agency 含む) が密に連携し、UAE が進める火星探査 / 開発計画に対して、教育人材育成や技術協力、共同開発、日本製品の売り込み等を進めるべきである。内閣府はその中核として情報を展開、活動を展開する推進力となるべきである。 	
報告事項 1	UAE 宇宙庁 – 内閣府 / JAXA 会合	
	日時・場所	2018年9月
	議事内容	<ul style="list-style-type: none"> ● UAE 宇宙庁と内閣府による定期的な会合が必要であることを確認。日本や UAE での直接面接による会合に加えて、ネットミーティング等も利用して定期的に打合せを実施する事で合意。次回の直接会議はハリファサットの打上後 (2018年11月頭) を予定 ● 今後の日 UAE 産官学連携、特に日本側からの売り込みについて。日本側から GSC を目標に、火星探査 / 開発まで見据えたロードマップと関連する技術提案の実施を提案。今回は特に超小型衛星のスラスタ技術、および衛星輸送手段に関する情報提供が求められた (対応済み)。今後、日本国内企業との情報共有を行い、内閣府が推進役となり積極的な売り込みを実施予定 ● UAE 側の将来計画に関して、UAE 側からの正式情報の提供を依頼。またこれに基づき、日本への要請事項をまとめて貰うこととなった。 ● 大学協力で進める千葉工大 – シャルジャ大の隕石探査プロジェクトに関して、予算も含めたプロポーサルを提示。検討を進めて貰える事となった。東大 – UAEU における超小型衛星のハンズオントレーニングに関しても継続審議となった。 ● 日本側の産官学連携による GSC への出展を検討

報告事項 2	UAE – Japan meeting	
	日時・場所	在京 UAE 大使館
議事内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 若田 / 山崎宇宙飛行士、中須賀教授、JAXA 関係者（調査国際部・企画）、秋山専門委員ほか i-space 袴田社長や日本の記者が参加し、UAE 大使と情報交換を実施 ● JAXA の取組や東大の超小型衛星、千葉工大の隕石探査、i-space の活動等を紹介。 ● 今後も継続的な情報交換を実施し、日-UAE の宇宙開発協力に関して大使の協力も得られることとなった 	
今後の予定	<p>1. UAE における隕石探査プロジェクトの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本側から技術 / 人材を提供し、UAE 側の費用負担で、UAE の砂漠における隕石探査を進める予定。隕石は惑星科学を進める上で重要な資料で有り、過去、日本も南極隕石の大量発見によりこの分野が進展した実績を有する。火星探査 / 開発を進める UAE も、1,000 個以上の発見が見込まれる UAE の砂漠地帯での隕石探査を進め、分析センターの設置や人材育成を進める。 ● プロポーサルは提出済み。UAE 側に早期の判断を求め、年度内に実施を予定 <p>2. GSC に向けた産官学連携の推進と企業売り込みの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● GSC（当初 2019 年 4 月開催予定だったが、3 月開催に変更になったとの未確認情報有り）で産官学共同による日本ブースの設置を目指す。またその過程で連絡会議を設置し、UAE に対する売り込みを強化する。 ● UAE 側には日本側からの提案一覧を提示すると同時に、UAE 側からの指名、あるいは日本側企業からの要望に応じ、内閣府も協力した売り込みを実施予定。既に日本国内複数社からの UAE への売り込み提案もあり、今後具体的な対応を進める予定 	

以上